



SUSTAINABILITY REPORT 2023

サステナビリティレポート 2023



Introduction

回れ、巡れ、喜び

カーボンニュートラルという人類共通の目標に向かって、

業界や立場の枠を超えた取り組みが求められる時代。

資源循環のリーディングカンパニーとして持続可能社会実現の一翼を担う

私たちが果たすべき役割もまた、従来の枠を超え、進化を遂げようとしています。

不要物の回収と再資源化は、もはや環境負荷の低減だけが目的ではありません。

再生資源を巡らせることで、新たなモノづくりや地域の活力を生み出し、

すべてのステークホルダーの喜びへとつなげていく。

サーキュラーエコノミーという喜びの環^わを回し続ける原動力となるために、

エンビプログループは未来に先駆け、挑んでいきます。

「回れ、巡れ、喜び」無限の笑顔があふれる、持続可能社会への想いを胸に。



Contents

- 01 イントロダクション
- 02 目次・編集方針
- 03 Our Concept
- 04 エンビプログループのあゆみ
- 05 トップメッセージ

- 06 エンビプログループの成長戦略
- 06 トップインタビュー
- 08 ミッション実現のためのマテリアリティ(重要課題)
- 09 価値創造プロセス
- 10 中期経営計画(2028)の策定

- 14 エンビプログループの事業
- 15 事業の全体像
- 16 ハイライト
- 17 資源循環事業
- 21 グローバルトレーディング事業
- 23 リチウムイオン電池リサイクル事業
- 25 障がい福祉サービス事業
- 26 環境経営コンサルティング事業

- 27 ESGの取り組み
- 28 環境
- 34 社会
- 34 SPECIAL TALK
- 42 ガバナンス

- 45 データセクション
- 45 会社概要
- 46 活動拠点
- 48 財務・非財務データ

編集方針

本レポートは、(株)エンビプロ・ホールディングスが発行するサステナビリティレポートです。エンビプログループの企業理念や、事業戦略・ESGなどに関する非財務情報全般にわたる取り組みをご紹介します。さらに、今後の計画を含む将来の見通しについても一部ご紹介しています。

報告対象範囲

(株)エンビプロ・ホールディングスと以下グループ会社11社を報告対象としています。(株)エコネコル、(株)NEWSCON、(株)3WM、(株)サイテラス、(株)クロダリサイクル、(株)しんえこ、(株)アストコ、(株)東洋コムチップ、(株)日東化工、(株)プライトイノベーション、(株)VOLTA

報告期間

2022年7月～2023年6月(活動内容、計画については、一部それ以降も含みます)



Our Concept

Mission Statement

ミッションステートメント

持続可能社会実現の一翼を担う

Corporate Philosophy

企業理念

そうぎょうきぎょう

創業企業

つねに社会にとって必要な事業を創造しつづける

日々創業 …… 初心を大切に日々創業精神で仕事をする

歴代創業 …… 代々初代の志を持って新事業を創造する

全員創業 …… 全社員が自分に合う第一人者の道を拓く

じゅんかんきぎょう

循環企業

助け合い、活かし合い、分かち合う喜びの環を回しつづける

快 労 …… 助け合い、補い合って気持ちよく働く

活 財 …… あらゆるもののいのちを活かして使い回す

還 元 …… 利益や喜びを共に生きる人たちと分かち合う

ぐどうきぎょう

求道企業

永遠につづく企業の道、人の道を追求しつづける

選難の道 …… 安易な道を選ばず求められる道を歩む

独自の道 …… 特質を生かし人のやらないことをやる

感謝の道 …… 生かされていることに感謝し慢心をしない

※監修 未来デザイン研究所 えにし屋 清水義晴氏2004年3月20日制定

最も大切にする価値観でありDNA

2000年頃になると循環型社会や環境問題に関する意識の高まりから、リサイクルに対するニーズ、各種法令の整備など事業環境が大きく変化し始めました。当社グループにおいても、成長するスピードは高まり、変化の度合いは大きく、人材は増加し、地域を超えて活躍し始めました。

同時に何か漠然とした不安を感じるようになりました。会社が順調に発展しはじめているにもかかわらず、これまでの長い間何が足りないかと探し続けていたものを再認識しました。木が成長し、幹は伸びますが、それを支える根を大きく張る必要があると。

表面の変化に左右されない、確固たる思想、理念が確立されていないことによるものだと強く感じ、2004年、私たちは企業理念を制定しました。

創業者の人生観、理念や口癖、幹部社員の人生観、想いなど会社に内在している考え方を紡ぎだし、約1年間かけて明文化しました。

どんなに私たちを取り巻く環境が変化しても、決して揺らぐことなく、また今後2000年間でも通用するような永続性を持ち、全ての行動の規範となる企業理念、「最も大切にする考え方」はこうして作り上げられました。

エンビプログループのあゆみ

エンビプログループの前身は1950年3月、佐野勝喜(当社代表取締役社長 佐野富和の実父)が静岡県富士宮市に鉄スクラップ問屋として佐野マルカ商店を創業したことに始まります。創業から金属リサイクルを強みにグループ展開を拡げてきましたが、近年ではサーキュラーエコノミーを具体的に実現するため新規事業にも多く挑戦しています。

事業拡大への基盤 → 次々と広がるグループ展開 → エンビプロ・ホールディングス設立そして上場 → 新たなビジネスへの挑戦

1950 1960 1970 1980 1990 2000

1950年 ■佐野勝喜(当社代表取締役社長 佐野富和の実父)が佐野マルカ商店を静岡県富士宮市にて鉄スクラップ問屋として創業



閉鎖した製造所の競売物件を一山買った初代

1989年 ■経営計画書による経営開始

1992年 ■貿易事業を開始

1997年 ■本社工場に大型シュレッダー設備を導入



大型シュレッダー設備を導入

次々と広がるグループ展開

- 2000年** ■(株)富士通ゼネラルとの合併により(株)富士エコサイクルを設立
- 2003年** ■(株)ユー・エス・エスとの合併により(株)アピツを設立
- 2004年** ■企業理念を制定
 - ASR(自動車シュレッダーダスト)の再資源化施設として自動車リサイクル法大臣認定を取得
- 2006年** ■中古自動車および中古自動車部品輸出事業を目的に(株)3WMを設立
- 2008年** ■資源リサイクル事業を行う(株)クロダリサイクルの株式を取得し子会社とする
 - 3WM CHILE IMPORT EXPORT LIMITADA(チリ)設立

2010

- 2010年** ■(株)エコネコル・ホールディングス(現:(株)エンビプロ・ホールディングス)を設立
- 2011年** ■資源リサイクル事業を行う(有)リサイクルサポートサービス(現:(株)しんえこ)の株式を取得し子会社とする
- 2013年** ■東京証券取引所市場第二部に株式上場



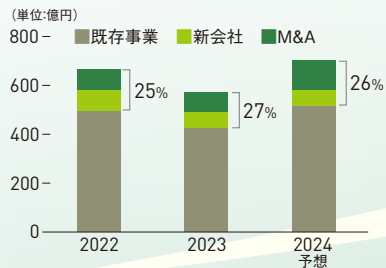
東京証券取引所上場

- 障がい福祉サービスを目的として(株)エコミット(現:(株)アストコ)を設立
- 2015年** ■廃ゴムリサイクルおよびゴム製品製造販売事業を行う(株)東洋ゴムチップの株式を取得し子会社とする

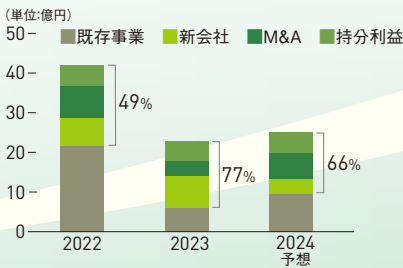
2020

- 2016年** ■環境経営コンサルティング事業を展開することを目的として(株)ブライトインベーションを設立
- 2018年** ■リチウムイオン電池リサイクル事業を目的として(株)VOLTAを設立
 - 東京証券取引所市場第一部に株式上場
 - RE100に加盟
- 2019年** ■TCFD提言に賛同
- 2020年** ■(株)エコネコルの貿易事業を承継し(株)NEWSCONを設立
- 2021年** ■木材リサイクルを行う富士見BMS(株)(現:(株)エコネコル ウッドリサイクルセンター)の株式を取得し当社孫会社とする
- 2022年** ■(株)エコネコルが富士見BMS(株)(現:(株)エコネコル ウッドリサイクルセンター)を吸収合併
 - 東京証券取引所プライム市場へ移行
 - (株)3WMの物流代行事業を承継し(株)サイテラスを設立
- 2023年** ■工業用ゴム製品や樹脂製品等の製造販売事業を行う日東化工(株)の株式を取得し子会社とする

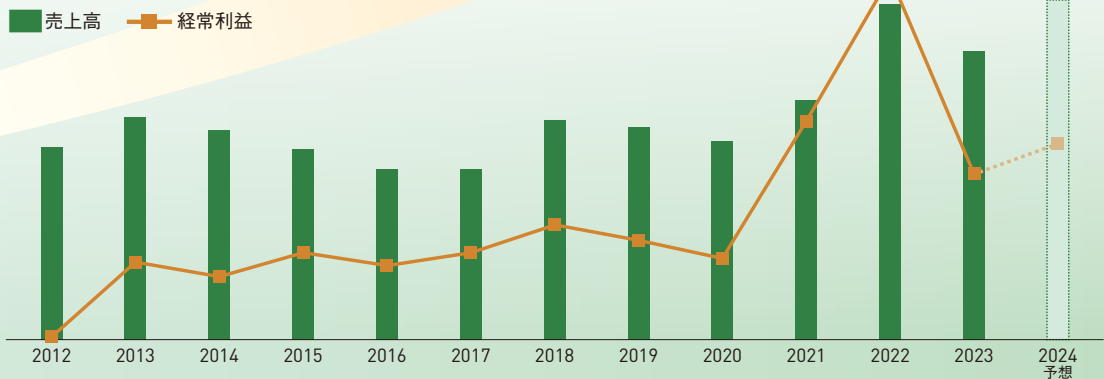
売上構成比の変遷



経常利益構成比の変遷



売上高と経常利益の推移



1992年に貿易事業を開始、1997年に大型シュレッダー設備を導入しました。この2つの出来事が、M&Aや、新会社あるいは合併会社の設立につながっています。当社グループは、新規事業から有望な事業が新会社となって成長してきました。M&Aはゴムや木材等のリサイクル領域の拡大を志向するものと、当社グループのノウハウを生かした事業再生を志向するものをメインとしてきました。今後もグループの成長に向けて積極的に取り組んでいきます。